

令和 3 年度

「運営に関する計画」

(最終反省)

大阪市立 十三中学校

令和 4 年 3 月

(様式2)

大阪市立十三中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	進捗状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。〔2年度 100% 認知1年1、2年1、3年0〕 〔3年度認知1年1件、2年1件、3年3件〕</p> <p>○令和3年度の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。〔2年度 98.2%〕〔3年度 98.6%〕</p> <p>○令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。〔2年度 0%〕〔3年度 0%〕</p> <p>○令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。〔2年度 1.4%=7名（1年2名、2年3名、3年2名）〕 〔3年度 6.5%=31名（1年7名、2年20名、3年6名）〕</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○今年度末の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を年度当初よりも増加させる。 〔2年度 86.6%〕〔3年度 83.3%〕</p> <p>○今年度末校内調査における「校内で暴力を受けたことがありますか」の項目について総数を20件以内に抑える。〔2年度 4件〕〔3年度 5件〕</p> <p>○校内調査における「学級生活満足群」（学級内での生活に十分満足している生徒）の割合を40%以上にする。（全国平均37%）〔2年度 1年47%、2年63%、3年53%〕 〔3年度 1年43%、2年47%、3年60%〕</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○令和3年度のチャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 〔74期生（現3年）：元年度 92.0、2年度 95.7、3年度 93.0%〕 〔75期生（現2年）：2年度 90.0※2教科（市）100.0、3年度 96.4%※3教科〕 〔76期生（現1年）：3年度 96.9※3教科〕</p> <p>○令和3年度のチャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。 〔74期生（現3年）：元年度 28.1、2年度 27.7、3年度 19.5%〕 〔75期生（現2年）：2年度 25.8、3年度 25.6%〕 〔76期生（現1年）：3年度 25.6%〕</p>	B

<p>○令和３年度のチャレンジテストにおける得点が府平均を２割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より３ポイント増加させる。</p> <p>〔74期生（現３年）：元年度 19.7、２年度 25.8、３年度 24.2%〕</p> <p>〔75期生（現２年）：２年度 19.9、３年度 16.9%〕</p> <p>〔76期生（現１年）：３年度 14.5%〕</p> <p>○令和３年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。〔２年度 82.6%〕〔３年度 82.7%〕</p> <p>○令和３年度の体力調査において、特に課題である「５０m走」の平均の記録を、前年度より向上させる。</p> <p>〔２年度 男子 7.85 女子 8.81（秒）〕〔３年度 男子 8.09 女子 8.78 秒〕</p> <p>学校の年度目標</p> <p>１、学力について</p> <p>○中学校３年生での英検３・４級程度の英語力を有する生徒の割合を昨年度以上に する。〔元年度 89.9%→２年度 中止、３年度 96.0%〕</p> <p>○中学校１年・２年数学科で月１回以上の学力向上にむけた校内研究授業を実施する。</p> <p>○全クラスで一人１台端末を活用した学習活動を行い、生徒の情報活用能力を育成 する。</p> <p>２、体力について</p> <p>○令和３年度の体力調査における体力合計点（Ｔ得点）を過去３年間の推移において 向上させる。〔元年度 男子 39.79 女子 48.89〕〔２年度 男子 44.42 女子 50.22〕 〔３年度 男子 39.79 女子 50.57〕</p> <p>【以下 淀川区役所連携事項】</p> <p>○学力調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくら いの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を、それぞれ 75% 以上、90%以上にする。〔３年度 80.6%、93.1%〕</p> <p>○年度末校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同 じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を、それぞ れ 65%以上、85%以上にする。〔２年度 寝ている 85.8%、起きている 91.0%〕 〔３年度 寝ている 81.9%、起きている 90.3%〕</p> <p>○中学校１年生での漢検において、各級受験生の合格率及び５級以上の合格者数を 昨年の１年生より向上させる。〔２年度 39.6%及び 60 名〕〔３年度 62.0%及び 77 名〕</p>	B
--	---

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策６ 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○生徒の安全を確保するとともに、各種の運動用具・運動器具を導入し、体育大会 をはじめ各種の学校行事に、室内オリンピックなどの楽しみながら体力向上をめざ すことができる取組を積極的に取り入れる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>体力調査において、全国平均を上回る種目を半分以上にする。</p>	B

<p>〔2年度 男子7種目（上体起こし以外）、女子2種目（握力、上体起こし）〕○ 〔3年度 男子7種目（上体起こし以外）、女子2種目（握力、上体起こし）〕△</p>	
<p>取組内容②【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○部活動の時間が制約される中、日常的な運動の機会を減少させることなく、基礎的な体力や運動能力の向上をめざす。</p> <hr/> <p>指標 部活動における退部者を5%以内に抑える。 〔2年度 2%=12/443名〕○〔3年度 2%=11/500名〕○</p>	A
<p>取組内容③【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○区役所の「子どもの睡眠習慣改善支援事業（ヨドネル）」とも連携を図りながら、遅刻を減らすよう日常的な生徒指導を継続して基本的生活習慣の確立をめざす。</p> <hr/> <p>指標 ・遅刻の年間のべ総数を前年度以下に抑える。 〔2年度1月末総数2,038日〕〔3年度※学級休業、学校休業等で総数が異なるため比較対象にならない。〕 ・遅刻が年間20日以上の子どもの数を前年度以下に抑える。 〔2年度2月末 30人〕〔3年度※コロナ関連の理由などで比較対象にならない。〕</p>	
<p>取組内容④【施策7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ○小中連携図書貸し出し事業の実施 ○「読み聞かせ」の実施 ○図書室開館と自主学习センター機能の充実 （以上元気アップ事業と連携）</p> <hr/> <p>指標 ・校内調査（年度末）において「読書は好きではありません」と回答する生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 〔74期生（現3年）：元年度 37%、2年度 31.2%、3年度 39.4%〕 〔75期生（現2年）：2年度 31.5%、3年度 28.0%〕 〔76期生（現1年）：3年度 29.40%〕</p>	B
<p>取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学びサポーター等を活用し、朝学習・朝読書・テスト前補習・長期休業中の家庭学習等を充実させる。</p> <hr/> <p>指標 令和3年度のチャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 〔74期生（現3年）：元年度 92.0、3年度 95.7%〕 〔75期生（現2年）：2年度 90.0※2教科（市）100.0、3年度 96.4%※3教科〕</p>	B
<p>取組内容⑥【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】数学科 2・3年生について、月2回程度研究授業を実施し、教育委員会学力向上推進担当者による授業改善の指導を受け、生徒の興味・関心を引き出しながら、基礎・基本の学力向上をめざす指導方法の工夫改善に取り組む。</p>	

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「数学が好きである」「数学の授業はよくわかる」の各項目について、年度当初と年度末との回答を比較する。 「数学が好きである」：3年度当初 52.8%、年度末 76.6% 「数学の授業はよくわかる」：3年度当初 50.0%、年度末 82.2% ・定期テストの同一母集団の分析から、個々の生徒の学習達成度を検証する。 1学期末テストと比べて学年末テストに成績が伸びた生徒は14名 平均点は60点から55点に下がった。 	B
<p>取組内容⑦【施策5. 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>淀川区学力向上支援事業「漢字名人育成計画」を活用し、中学校1年生を対象に漢字能力検定受験に向けて目標を明確にし、計画的に学習に取り組むことで学習意欲を高め、着実な学力向上に努める。(区役所と連携)</p> <p>漢字能力検定受験に向けた漢字の演習問題を3回行う。</p>	B
<p>取組内容⑧【施策5. 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>一人1台端末の活用において、情報活用能力を育成すべく、教科における双方向による主体的対話的な授業の実現および個別最適学習のためのデジタル教材の活用を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「一人1台端末（Cromebook）を使用した授業は楽しいですか」「～わかりやすいですか」の各項目について回答を年度末までに2回行い比較する。 「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に対して肯定的な回答 〔令和3年 1年 未実施、2年未実施 3年 93.1%〕 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現</p> <p>取組内容①【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から従来の体育大会でなく、体育大会の種目を厳選し、校内で体育学習発表会を行い、その様子をオンラインで保護者に配信した。コロナ禍における学校行事の縮小の中、生徒の団結力や団体行動の指導の場を確保することに苦心した。</p> <p>取組内容②【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>緊急事態宣言下では感染症対策を徹底し、活動内容を厳選しながら子どもの安心安全、および健康や体力を保持することをめざした。</p> <p>取組内容③【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>区役所の「子どもの睡眠習慣改善支援事業（ヨドネル）」については区役所の担当者と連携し、本校生徒の課題をメッセージにしたチラシを配付し、健康と睡眠の関係を意識させた。</p> <p>「心豊かに力強く息抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」</p>	

取組内容④【施策7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

図書室開館と自主学習センター機能の充実は元気アップ事業との連携によりスムーズに行えている。元気アップ担当者と学校図書館補助員の連携により、学校図書館の環境整備や読書活動の推進が図れている。図書ボランティアによる読み聞かせは1回3年生対象の進路にかかわる『「自己申告書」対策講座』を開催した。

取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

朝学習、朝読書に加えて、2年では独自に5行作文や、新聞の社説の書き写し、脳トレパズルをローテーションで取り組ませた。テスト前補習はクラブ単位で自習させるクラブがいくつかあった。夏の長期休業は、全学年補習に取り組んだ。

取組内容⑥【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

教育委員会の学力向上推進担当による指導を受け、2、3年生数学科担当が授業改善に取り組み、月1～2回校内研究授業を実施してきた。基礎学力の向上や生徒の主体的・対話的な活動を取り入れている。

若手教員が意欲的に教材研究や研究授業に取り組み指導力の向上に努めている。

取組内容⑦【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

事前の学習として以下の3点を行った。

1. 漢検協会の級別学習プリントを配布し、受検級の問題に取り組んだ。
2. 漢検協会の対策プリントをオンデマンド学習に活用し、家庭で学習するように促した。
3. 図書室からの対策本の貸し出しを行い、家庭学習を促進した。

取組内容⑧【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

3年生の英検は希望者のみの受験であるため、「中学校3年生全員で受検するGTECテストでA1レベル（身近な単語や表現を使いコミュニケーションがとれる）生徒の割合を70%以上にする。」という目標に変更するべきである。

次年度への改善点

新型コロナウイルス感染拡大による、教育活動の停止や制限など予測困難な対応が求められる中、子どもたちの命を守る安心・安全な教育を展開することができた。校内の問題行動の件数は減少し、落ち着いた学習環境が構築されつつある。一方で、コロナ不安や親子関係等に悩む生徒など、多種多様な援助ニーズを抱える子どもが少なくないため、思春期の子どものメンタルヘルスの安定化に着手していく必要があると考える。学校規模で子どもたちの自己肯定感を高め、胸を張って学校が好きだといえるよう学校全体で研鑽していく必要がある。

学力向上については、コロナ禍にあって、学校休業や学級休業の措置に加え、コロナ不安による出席停止の生徒が増え、オンラインによる学びの保証を行ったが、対面授業に比べると学習の定着度が低くなってしまった。このように十分な授業時数が確保できないままチャレンジテストの範囲を指導するために、授業の進度を速めることとなったことなどが学力低下に拍車をかけてしまった要因である。今後の感染症など予測できない事態を想定し、オンラインでも個別最適化学習が行えるよう、一斉授業に追いつけない生徒への対応を工夫することが課題である。一人1台端末が配付され、情報活用能力の育成が急務となってきた。確かな情報を正確に読み取る力と、わかりやすく出所の明らかな情報を根拠として発信する表現の仕方など、より具体的に情報を送受信する力を向上させる必要がある。

その一方で、図書館の活用により、デジタルメディアを活用することの大切さを見直すことも重要である。情操をはぐくむためにも読書の機会を持てるよう、委員会活動などを

とおして読書推進の取り組みも推進していく。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ○「hyper-QUテスト」(もしくは校内調査)を実施することにより、学級内の人間関係を精査した上で、面談や家庭訪問、その他、教員が生徒と触れ合う時間を確保し、効果的にいじめの予防、早期発見、早期対応を行う。 ○校内外の専門家と連携を取り、情報共有を図りながら、解決に向けて組織的に取り組む。		B
指標 校内調査において、いじめの申告の総数を5件以内に抑える。 〔2年度 5件〕〔3年度 7件〕		
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 保護者・地域とのコミュニケーションの機会を充実させるとともに、物事に感動したり、他者を思いやることの大切さを実感する場面を創出する。		A
指標 学校管理下における生徒と保護者・地域ボランティアとの直接交流の場を、のべ50回確保する。〔2年度 78回(うち放課後図書室開館70回)〕 〔3年度 ボランティアによる読み聞かせ1回 放課後図書館会館120回〕		
取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ホームページや学校だより等によって学校の現状を保護者・地域にリアルタイムで発信することで、地域に開かれた学校づくりを推進していく。		A
指標 教育内容や活動のHP掲載及び保護者メールによる伝達を積極的に行い、ホームページの閲覧数については、生徒数を基準にした毎月の閲覧数が平均90%を超えるようにする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ・大阪教育大学大学院の庭山先生のご指導のもと、生徒指導主事を中心に子どもたちの困り感に寄り添う指導や肯定的な行動を推進する取り組みを行っている。 ・11月に1回目のQ-Uアンケートを実施した。現在結果の考察をしている。3月に第2回目を実施した。		
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 ・管理作業員による校内の果樹園の整備やPTAによる花の提供で学校の豊かな環境が促進されている。園芸部が緑化に取り組み、地球温暖化や環境問題に対する認識を深めている。 ・「淀川区大志育成プロジェクト学習会」の助成を得て、中央大学客員教授高橋聡美先生を招き「SOS出し方授業」を実施した。自分や相手を大切にする考え方についての講話を聞き、「生きづらさ」を感じた時のSOSの出し方を身に付けることをねらいとした。		

- 「7校園の中堅教員の交流会を実施し、生活指導に関するテーマを話し合った。
- ・12月に3年生対象の『「自己申告書」対策講座』を2回実施した。

取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

- ・HP担当者が随時学校行事や授業、部活動の様子を掲載している。
- ・修学旅行や校外学習等ではリアルタイムで活動状況がHPに掲載した。修学旅行中の保護者の方々からの問い合わせはほとんどなかった。
- ・7校園PTAと連携し、中央大学客員教授高橋聡美先生による人権研修会を実施し、地域全体で子どもの心の変化をキャッチし子どものSOSにどう対処していくかを身に付け、一つの命も取りこぼさないという認識を深めた。

次年度への改善点

Q-Uアンケート後に大阪教育大学水野先生を講師に招いて研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の陽性者が複数名発生し、臨時休業となり実現できなかった。生徒指導主事が結果を分析し、校長を通して各担任にフィードバックを行った。よって、各担任が学級経営においての課題を数値で可視化し、客観的に把握することを可能にした。これについては、令和4年度も引き続きQ-Uアンケートを実施することで、子どもの学校生活における課題解決に努める。

生徒の情報の入手方法がSNSに偏っており、情報モラルの面でのトラブルも後を絶たない。様々な生き方や考え方を認め合う心のありかたや相手にわかりやすく伝える表現力の育成が課題である。

また、未曾有の災害や感染症に対して、生徒の命を守るために教職員が組織的に危機管理に取り組むことも緊急の課題である。平和学習、性教育など、様々な社会問題を取り上げ、複雑で先の見えない時代を力強く生き抜くための教育に取り組んでいく。

新年度は、4月に淀川区役所と連携しLGBD活動家藤原直氏による研修を予定している。この研修を通して、性的少数者に対する認識を深め、生徒の心に寄り添う教育をさらに推進していく。